

知って当たり前 介護ガイド帳



上原喜光

震災直後の気が張っている状態が過ぎ、これからのことを考える時期になりました。

被災者はこれから長い苦難が始まります。避難所で協力し合ってきた仲間が1人去り、2人去り……これらをきっかけに「幻滅期」へ入ってきます。

もう避難所で多くの高齢者、要介護者が亡くなっています。震災で命が助かり、避難先で亡くなるなんて、とても悲しいことです。

被災者の中には高齢者が多数含まれています。あなたの親が避難所生活なら、介護ヘルパー、看護師に体の変調を相談するほか、当座の介護法を教わります。高齢の方は我慢強く、「みんな大変だから」と頼みごとを遠慮する傾向もある。薬の手配も重要です。

また、都会の第三者も被災高齢者の今後を考えてみましょう。

とりあえず、東京都が公営

車椅子を押すボランティア



住宅600戸を提供しましたが、今後続々と近所に移住してくるのです。そばにいる高齢者には、必ず声をかけてや

ってください。「NHKボランティアネット」などの情報を見れば、こちらで募集しているボランティアも探せます。

また、公的機関である「全国社会福祉協議会」「災害ボランティアセンター」に連絡してもいいでしょう。資格はなくても、車椅子をpushすることぐらいはできます。

子や孫を亡くし、ストレスで精神的に参って生きる気力をなくされたり、もっと深刻になると、うつによる自殺も考えられます。それを止めるには「頑張れ」ではなく、「一緒に頑張ろう」です。

(全国介護者支援協議会会長)

あなたの町でできるボランティアを探そう